

平成 28 年 4 月 1 日

各 位

会社名：川崎汽船株式会社  
代表者名：代表取締役社長執行役員 村上 英三  
(コード番号 9107 東証・名証第一部、福証)  
問合せ先：経営企画グループ長 室崎 正浩  
(TEL 03-3595-5594)

平成 28 年 3 月期通期連結業績予想の修正並びに構造改革費用等の計上に関するお知らせ

平成 28 年 1 月 29 日に公表した平成 28 年 3 月期（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）の通期業績予想の修正をいたしましたのでお知らせいたします。またこれに関連し、実施する構造改革費用等の見込みにつきお知らせいたします。

記

1. 平成 28 年 3 月期の連結業績予想数値の修正（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

	通期				
	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり連結 当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 28 年 1 月 29 日公表)	百万円 1,275,000	百万円 11,000	百万円 7,000	百万円 5,000	円 銭 5.33
今回修正予想 (B)	1,250,000	7,000	1,000	△ 50,000	△ 53.35
増減額 (B-A)	△ 25,000	△ 4,000	△ 6,000	△ 55,000	△ 58.68
増減率 (%)	△ 2.0%	△ 36.4%	△ 85.7%	-	-
(ご参考) 前期連結実績 (平成 27 年 3 月期)	1,352,421	47,988	48,980	26,818	28.60

修正の理由

過剰設備調整に伴う中国経済の減速、また資源価格下落による新興国経済の不調が鮮明となるなか、需要減退に伴う船腹需給ギャップの拡大により、ドライバルク船市況が想定以上に低迷し、またコンテナ船における運賃修復の動きが進まなかったため、営業利益、経常利益を下方修正いたしました。また、親会社株主に帰属する当期純利益はドライバルク事業における構造改革費用等、並びに投資有価証券評価損に伴う特別損失の発生により前回予想から大幅に下方修正し約 500 億円の損失を見込みます。

## 2. 構造改革費用等の計上について

### 1) 構造改革費用等の見込みについて

ドライバルク事業において、中国経済の減速が顕著となるなか、資源需要の減退に伴い、荷動きが停滞した結果、市況は史上最低水準を下回るまで下落しました。原油、鉄鉱石等の資源価格及び需要は一定の回復の兆しを見せていますが、船腹需給バランスの改善は暫くの時間を要するものと見込まれます。事業を取り巻く環境が構造的な変化に直面するなか、当社グループが運航する中小型船を中心に船隊規模の縮小を一段と加速させ、市況へのエクスポージャーを低減するため、構造改革の実施を行うことといたしました。この結果、追加の保有船の処分及び備船の早期解約、並びにドライバルク船の一部における減損損失等により特別損失等で約 500 億円の計上を見込んでいます。


### 2) 平成 28 年 3 月期連結会計期間における投資有価証券評価損

「その他有価証券」に区分される投資有価証券のうち、時価が著しく下落し、その回復する見込みがあると認められないものについて、平成 28 年 3 月期第 4 四半期連結会計期間において減損処理による投資有価証券評価損を計上いたします。

平成 28 年 3 月期第 4 四半期連結会計期間（平成 28 年 1 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで）の投資有価証券評価損の総額	8,365 百万円
---	-----------

- ※ 四半期連結会計期間における有価証券の評価方法は、洗替え方式を採用しております。
- ※ 当社の決算期末は、3 月 31 日です。

### （中期経営計画の見直しについて）

当社を取り巻く事業環境は大きな構造的変化に直面して居ると認識しており、この変化に迅速に対応するため、ドライバルク事業における構造改革のみならず、経営計画の抜本的な見直しを行うことといたしました。平成 27 年 3 月に公表した中期経営計画 “ Value for Our Next Century” について、現在、見直しを進めており、当期の業績予想の発表のタイミングと合わせて公表する予定です。

以上

注) 本資料に記載されている業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて算定したものであり、実際の業績は今後の事業環境等、様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。